

テーマ：景気動向指数（2015年8月）の予測**発表日：2015年10月2日（金）****～C I一致指数は2ヶ月連続の低下に。景気の停滞感は強い～**第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○一致C I、先行C Iとも2ヶ月連続で低下

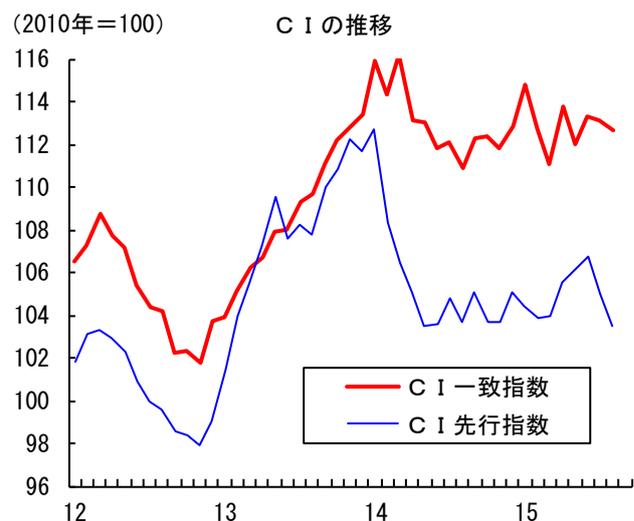
内閣府から10月7日に公表される2015年8月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲0.5ポイント（7月：▲0.2ポイント）を予想する。小幅ではあるが、2ヶ月連続の低下になるだろう。C I一致指数は一進一退の足踏み状態にあると判断され、停滞感が強い。内訳では、8月は中小企業出荷指数と有効求人倍率が上昇したものの、その他の採用系列はマイナス寄与となった見込み。特に投資財出荷指数のマイナス寄与が大きく、足を引っ張った形だ。

先日公表された鉱工業生産は事前予想を大きく下振れ、4-6月期に続いて7-9月期も減産になることが確実になった。また、減産幅も4-6月期に匹敵するものになりそうだ。つい1～2ヶ月前に言われていた「4-6月期の落ち込みは一時的」との見解はあてが外れ、期待されていた7-9月期のリバウンドは完全に不発に終わってしまった。生産のほかにも、輸出が底ばい状態にとどまっていることや、個人消費も4-6月期の悪化の後でも緩やかな増加にとどまるなど、需要面でも改善の展望が未だ見えてこない。先行き不透明感は依然強く、景気の足踏み感が解消されるには、まだ時間がかかりそうだ。

また、8月のC I先行指数は前月差▲1.5ポイントを予想する。7月の▲1.7ポイントに続いて2ヶ月連続の大幅低下になるだろう。内訳では、最終需要財在庫率指数や鉱工業生産財在庫率指数、日経商品指数などのマイナス寄与が大きく、全体を押し下げた。先行C Iは15年春以降持ち直し傾向にあったが、7、8月の大幅低下により、その上昇分を完全に吐き出した形になる。C I先行指数の悪化は先行きの景気を見る上で懸念されるところで、特に在庫率の悪化は気にかかる。

○基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることがここでも確認される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2015年8月は第一生命経済研究所による予測値